



Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

日本皮膚病理組織学会会誌 (2005.12) 21巻1号:18～21.

陰影細胞を認めたApocrine Mixed Tumorの1例

堀仁子, 佐藤恵美, 真鍋公, 山本明美, 飯塚一

5. 陰影細胞を認めたApocrine Mixed Tumorの1例

A Case of Apocrine Mixed Tumor Shadow Cells

旭川医科大皮膚科学教室

堀 仁子、佐藤恵美、真鍋 公、

山本明美、飯塚 一

key words: Apocrine mixed tumor, shadow cell

症例：38 歳男性。

初診：2004 年 11 月 1 日

現病歴：2004 年 8 月頃に眉間部の結節に気がついた。徐々に増大したため函館協会病院皮膚科を受診した。

既往歴・家族歴：特記することなし

現症および治療経過：眉間部に大きさ 1cm 大の正常皮膚色の皮下結節を認め (Fig.1)、粉瘤を疑い単純切除した。

病理組織学的所見：皮下に線維性被膜で囲まれた比較的境界明瞭な結節をみた (Fig.2)。腫瘍塊は辺縁は中型で好塩基性、立方形の充実性に増殖した細胞で占められ、中央に向かって核が濃縮し胞体が濃い好酸性の細胞になっている。所々で大小不同の管腔構造を示し、断頭分泌をみた (Fig.3)。クチクラで縁取られた小管腔構造も認めた。脂腺細胞様の細胞もわずかに散見された。間質成分は線維性および一部粘液腫様の変化を示していた。軟骨様所見はなかった。腫瘍下部では囊腫様構造を示し、層状の角化を認めた (Fig.4)。一部毛母腫でみられる陰影細胞様の部分もみられた (Fig.5)。一部 plasmacytoid cell を認めた (Fig.6)。

免疫組織学的所見：CEA,EMA,GCDFP15 が汗腺分泌部の構造を示す部位に陽性。アルシアンブルー染色では間質にムチンが沈着していた。

以上、腫瘍は管腔構造を含む上皮成分と腺維性および粘液腫様の間質成分からなっていたこと、断頭分泌像を認めたこと、毛包、脂腺への分化を認めたこと、plasmacytoid cell を認めたことから自験例を apocrine mixed tumor と診断した。

考察：Mixed tumor of the skin は臨床的に 20~40 歳台の顔面、頭部、とくに鼻周囲に好発し、通常平均 1~2cm 大程度の結節を呈する。腫瘍の増殖は緩徐で、臨床診断は cyst であることが多い。1961 年 Headington は腫瘍内の管腔構造の病理組織学的特徴からエクリ



Fig.1



Fig.2

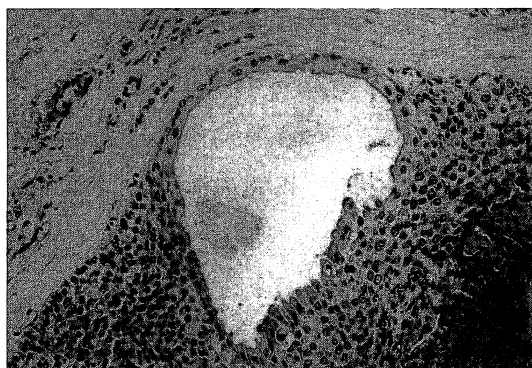


Fig.3

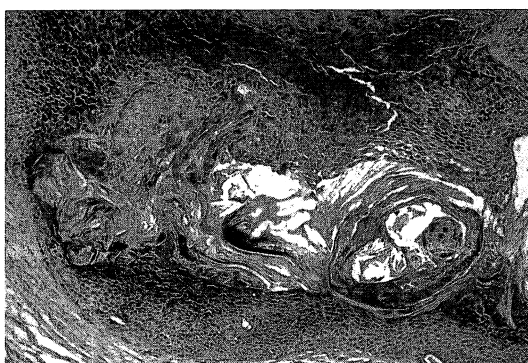


Fig.4

ン型とアポクリン型とに大別した¹⁾。アポクリン系への分化を示すものは全体の 2/3 以上を占めるとされる。apocrine mixed tumor の病理組織学的特徴は、断頭分泌が存在すること、2 層の上皮からなる拡張した腺または管腔構造が存在すること、腫瘍細胞の集合体の形や大きさがさまざまであること、上皮と間質との混合割合がさまざまであること、毛包、脂腺細胞が存在することなどがいわれている²⁾。自験例はこれらの所見をすべて満たしていた。

本症の病理組織学的鑑別疾患は apocrine tubular adenoma, apocrine fibroadenoma, apocrine poroma などがあげられる。apocrine tubular adenoma では腺腔構造が主体なこと、通常ムチンの沈着が少ないこと、大型の囊腫状構造を伴わないことから鑑別した。また、apocrine fibroadenoma では上皮成分が充実性に増殖する所見がないこと、ムチンの沈着があまりないこと、大型の囊腫状構造を伴わないことから鑑別した。apocrine poroma は、毛包漏斗部との連続像があること、分葉構造をとることから鑑別した。

自験例の特徴は腫瘍内に囊腫様構造を認め、その一部に陰影細胞を認めたことである。Mixed tumor of the skin 以外にも表皮囊腫、Gardner 症候群の dermoid cyst、ケラトアkantoma、毛包上皮腫、基底細胞癌、脂腺母斑などで陰影細胞巢の併発を認めた³⁾ という報告がある。陰影細胞巢の合併は毛包分化性の指標と考えられており、自験例においても陰影細胞のほかにも囊腫様構造内に空隙と角化の共存が認められ、毛包への分化を示唆した。自験例は腫瘍内に毛包、脂腺、アポクリン腺へ分化している部位がそれぞれみられ、これは胎生期の primary epithelial germ からの発生とされる folliculo-sebaceous-apocrine unit の概念に一致する。この考えからも apocrine mixed tumor は病理組織学的に種々のバリエーションがあることが予想され興味深く、陰影細胞巢を認めた apocrine mixed tumor として報告した。

文献

- 1) Headington JT : Arch Dermatol 84 : 989, 1961
- 2) Abenzoa P & Ackerman AB : Neoplasms with Eccrine Differentiation, Lea & Feibiger, Philadelphia, 285, 1990
- 3) 麻生和雄ら : 西日皮膚 53(3) : 490, 1991

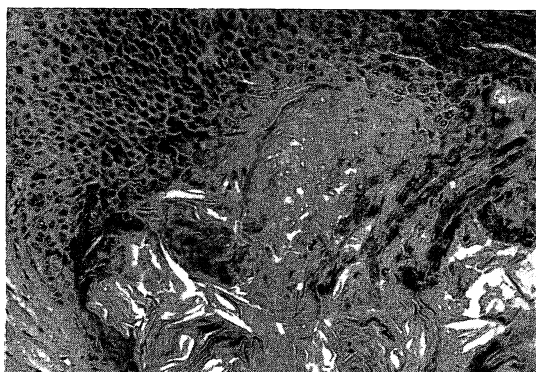


Fig.5

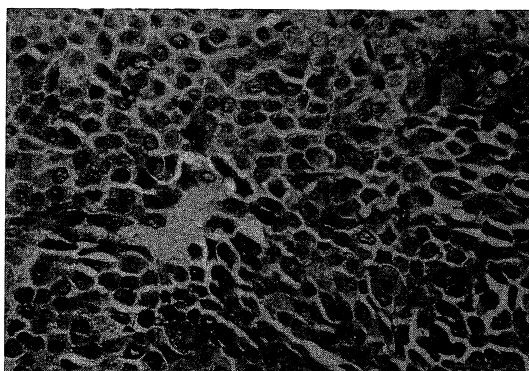


Fig.6